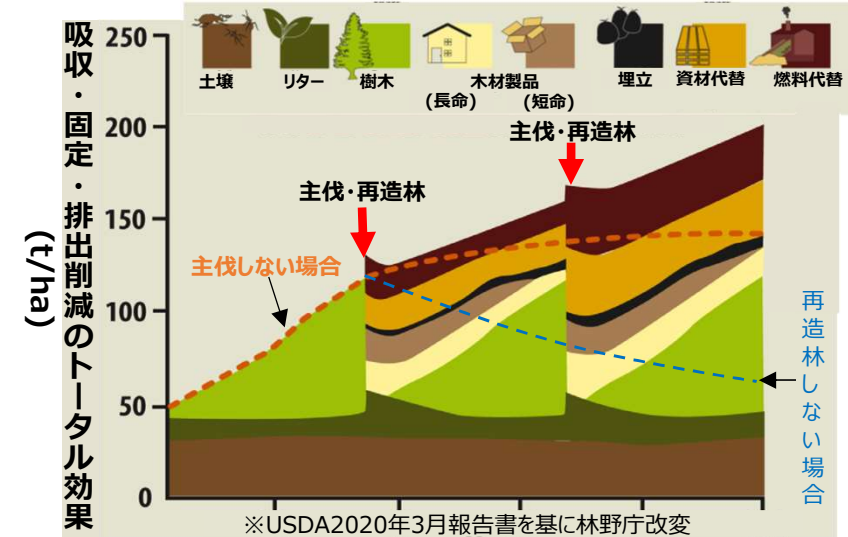
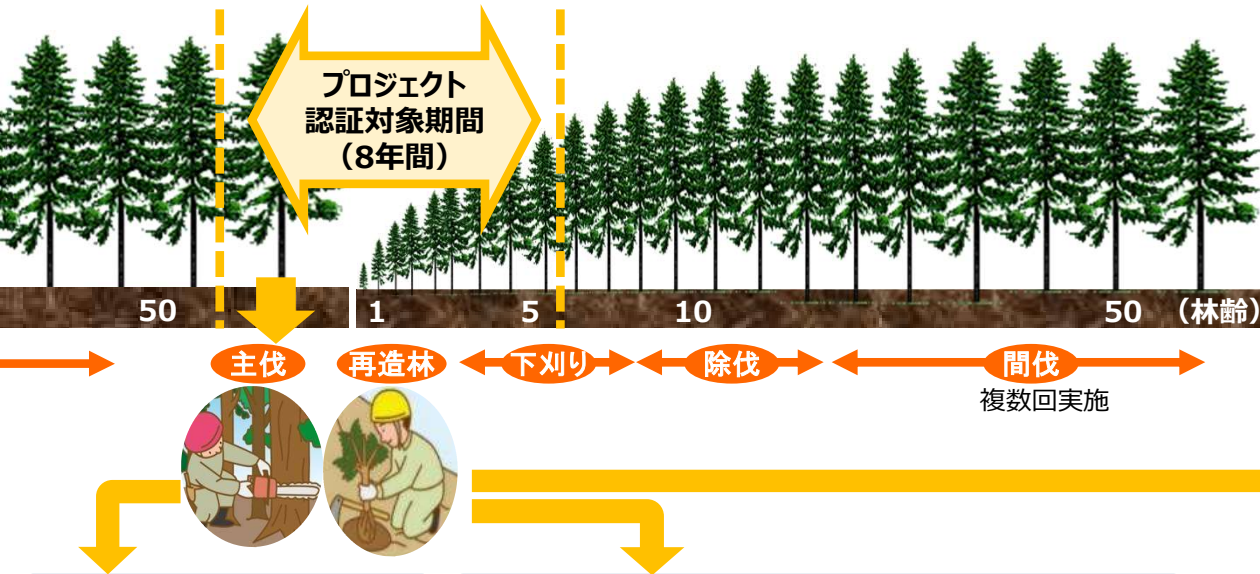


森林由来 J-クレジットの創出拡大 –森林管理プロジェクトの制度見直しの概要–

- 利用期を迎えた森林資源を「伐って、使って、植える」循環システムを確立することが2050年カーボンニュートラルに大きく貢献。
- J-クレジット制度が主伐・再造林の循環システム確立の後押しとなり、より利用しやすくなるよう、森林経営の長期的な時間軸を踏まえたルールに改正（8月5日の制度運営委員会において決定）。



課題①：追加性要件

- 認証対象期間中（8年間）の収支見込が赤字であることを証明する必要（主伐を行うと黒字が見込まれ、プロジェクト登録要件を満たさない）。
- ➔ 主伐後に再造林を計画する場合や、保育・間伐等施業のみ計画する場合は、林業経営の長期的な経費を踏まえ、証明は不要とする。

課題②：主伐時の排出計上、再造林の推進

- 主伐は「排出」計上されるためクレジット認証量が少ない（主伐・再造林を含むプロジェクトが形成されにくい）。
- ➔ 主伐後の伐採跡地に再造林すれば、排出量から控除する*制度を導入。
*標準伐期齢(35-45年程度等)に達した時点の炭素蓄積を排出量から控除（別紙参照）
- 主伐後の造林未済地が増加。
- ➔ 造林未済地を対象に、第三者が再造林を行う場合も制度の対象に追加。

課題③：伐採木材の炭素固定

- 森林のみが吸収クレジットの算定対象（伐採木材に固定される炭素は評価対象外）
- ➔ 間伐や主伐により伐採された木材が製品として使われることにより固定される炭素量の一部を、吸収クレジットの算定対象に追加（伐採木材が木製品として利用されることによる固定量进行评估）。

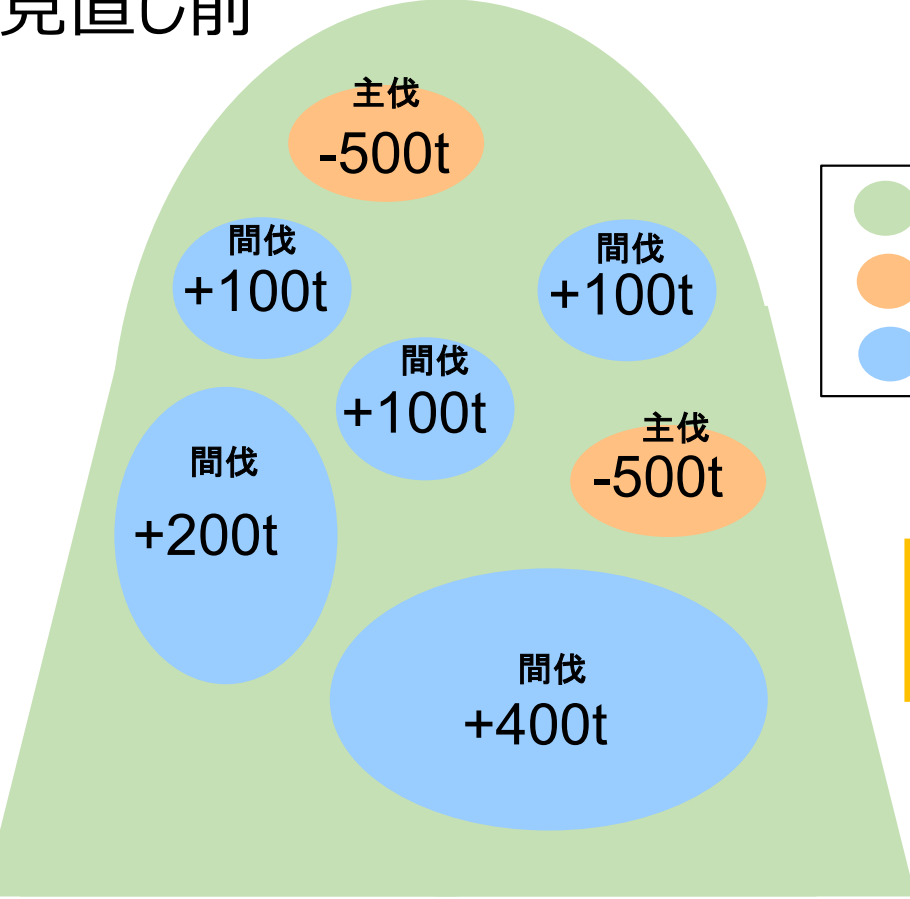
課題④：天然生林の取り扱い

- 森林施業が実施された森林（=育成林）のみが吸収クレジットの算定対象（天然生林は算定対象外）
- ➔ 保安林等に指定された天然生林で、森林の保護に係る活動（森林病害虫の駆除・予防、火災予防等）を実施すれば吸収クレジットの算定対象に追加。

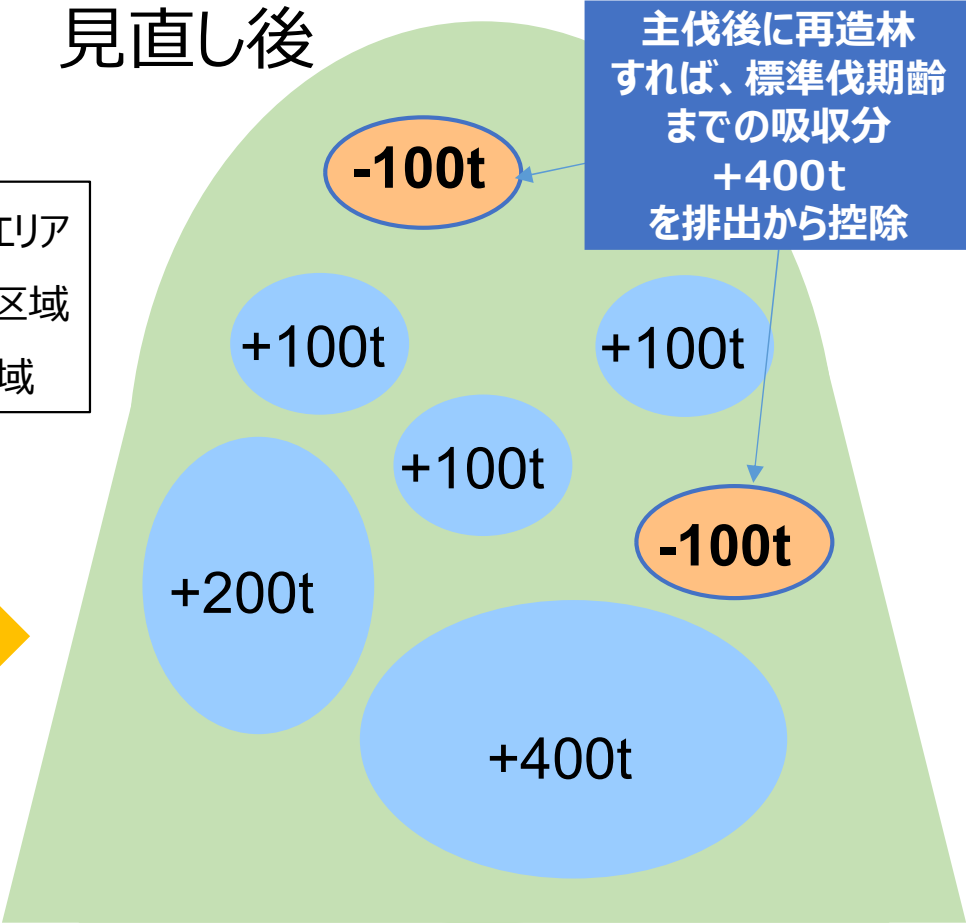
【認証対象期間の延長】 認証対象期間を最大16年間に延長できる措置を併せて導入。

【別紙】 主伐を含む森林プロジェクトの吸収量・排出量計上の見直しイメージ

見直し前



見直し後



- 森林プロジェクトのエリア
- 主伐・再造林した区域
- 保育・間伐した区域



主伐後に再造林
すれば、標準伐期齢
までの吸収分
+400t
を排出から控除

間伐した森林の吸収量
= +900t-CO₂ (8年間)
主伐した森林の排出量
= -1000t-CO₂

期間計
-100t-CO₂
※排出過多のため
クレジット認証不可

間伐した森林の吸収量
= +900t-CO₂ (8年間)
主伐した森林の排出量
= -200t-CO₂

期間計
+700t-CO₂
※クレジット認証可